

## 【政策 4】産業・交流

### 【施策 4-1】



## 農家の担い手を育て儲かる農業を目指します

主管課：農林課

### ◆現状と課題

農業は小諸市の基幹産業であるが、ほ場の傾斜がきつく、面積も小規模な中山間地という立地条件に恵まれていない状況もあり、農家数の減少、農業従事者の高齢化、後継者・担い手不足、遊休荒廃地の増大などが課題となっている。

担い手の育成や確保については、新規就農者や振興作物等への支援など、多様な経営体による営農の維持・発展が不可欠であり、稼ぐ力を意識した魅力ある農業への変革が必要である。

### ◆方針（目的）

農業が儲かる産業となり夢が持てるようにならないと、後継者や新規参入者等の担い手は育たない。

そこで、農地の利用集積や基盤整備を進める中で、気候変動に対応した優良産地の団地化により、農産物の競争力を高めるとともに、「農」と「土壌」に着目したアグリシフトの推進を図る。また、生産するだけでなく「どう売るか」を農商工業者とマーケティング専門家との協働により、「小諸ブランド」を創造し強化を図ることで、儲かる農業を目指す。

また、既に生産物の販路が確立された地域においては、農業の生産性をさらに向上させ、儲かり続ける農業を目指す。

### ◆目標

- ①農地・農道・水路等の基盤整備が進み、農地が保全され、効率的な農業ができている状態。
- ②農地の利用集積が進み、耕作放棄地が増えない状態。
- ③農産物等における小諸ブランドが確立され、ビジネスとして成り立っている状態。
- ④森林が整備され、野生鳥獣による農業被害が増えていかない状態。

## ◆目標値

①	指標名	基幹的農業従事者の農業所得（年間200万円以上の人数）				
	設定理由	農家所得の向上が魅力ある持続可能な農業につながるため。				
	目標値	令和元年度(現状値)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		93人	93人	96人	99人	102人
②	指標名	再生利用が可能な荒廃農地面積				
	設定理由	年々増加する農地の荒廃化を防ぎ、荒廃農地のうち再生可能な農地を賃貸借の推進等により再生する必要があるため。				
	目標値	令和元年度(現状値)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		306ha	306ha以下	306ha以下	306ha以下	306ha以下

## ◆SDGsの推進に向けた取り組み

## ゴール2 「飢餓をゼロに」

農業には「食料を供給する」という重要な役割がある。これを実現するために、強い農業の存在が欠かせない。

このため、環境と調和した持続可能な農業を推進し、生産技術の向上やスマート農業の導入により、農地や労働力を確保し食料自給率の向上を目指すとともに、生産者の所得の確保・向上を図るなど、食料生産システムの確立と安定的な農業経営を目指す。

## ゴール13 「気候変動に具体的な対策を」

## ゴール15 「陸の豊かさを守ろう」

近年、地球温暖化による異常気象等が原因で、森林や農地等の災害が多発している。

このため、森林や農地等の適切な維持管理や、水路等の農業用施設の強靱化を推進するなど、良好な環境を保持していくことで、気候変動等による悪影響を最小限に抑制し、自然災害等から地域を守る。

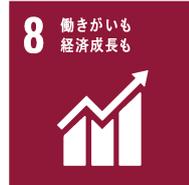
## ◆主な事業

機構集積支援事業／市単土地改良事業／農業振興事業／農業人材育成事業  
／農産物ブランド化事業／野生鳥獣保護・管理事業／森林整備促進事業

## ◆個別計画

農業振興地域整備計画／農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想  
／森林整備計画

## 【政策 4 産業・交流】



### 【施策 4 - 2】

地域の強みを活かした企業誘致と事業者支援、起業者の育成を強化し、地域経済の活性化を図ります

主管課：商工観光課

#### ◆現状と課題

首都圏からの良好なアクセスとリスク分散の適地としての認知度、豊かな自然環境と軽井沢エリアとしてのブランド力など、企業が求める一定条件を備えた地域として、積極的な企業誘致を進めているが、提供できる商品として自己所有地がないため、企業からの引き合いに対する競争力を失っている。持続的な地域経済を構築するために不可欠な、既存企業や新規起業者の支援は、地域外の人材誘致など新たな視点で取り組む必要がある。新型コロナウイルス感染症の影響は、多くの業種の事業活動にこれまで経験したことのない停滞をもたらしており、継続した支援を必要とする。

#### ◆方針（目的）

企業誘致は引き続き地域の強みを活かして取り組み、外国籍企業やアフターコロナを見据えたサテライトオフィスなどを新たなターゲットに加え進めるが、これまで課題であった競争力を高めるため、まずは既存工業団地の未造成、未分譲地を早期に買収、商品化するとともに、次期工業団地計画に着手する。既存企業の事業拡大や技術力向上への支援に引き続き注力するほか、事業者の自主的な取り組みへの支援や事業承継等の課題にも対応する。また、起業・創業は地域内人材だけに頼らず、新たな経済の担い手づくりとして人材誘致にも積極的に関わり、新型コロナウイルス感染症の影響からの回復と地域経済の活性化につなげる。

## ◆目標

- ①地域住民だけでなく、移住者など地域外ニーズにも応えられる就業先がある状態。
- ②起業・創業により新たな事業活動や遊休不動産等の活用などの経済効果が生じる状態。
- ③継続的な支援により、新型コロナウイルス感染症の影響による消費の落ち込みを改善した状態。

## ◆目標値

①	指標名	企業立地数				
	設定理由	新規企業の立地や既存企業の増設は新たな雇用の創出と税金など財政力の強化に直結するから。				
	目標値	令和元年度(現状値) 4件	令和2年度 5件以上	令和3年度 5件以上	令和4年度 5件以上	令和5年度 5件以上
②	指標名	市内での起業・創業件数（小諸商工会議所「創業塾」「チャレンジ企業相談室」における件数）				
	設定理由	起業・創業により経済の担い手が増え、事業活動や消費行動が広がることで地域経済が活性化するから。				
	目標値	令和元年度(現状値) 16件	令和2年度 16件以上	令和3年度 16件以上	令和4年度 16件以上	令和5年度 16件以上

## ◆SDGsの推進に向けた取り組み

ゴール8 「働きがいも経済成長も」

ゴール9 「産業と技術革新の基盤をつくろう」

豊かな自然環境や気候風土など地域の特色を活かした経済活動の定着を図るため、企業誘致や企業・事業者支援に取り組み、安定した雇用環境を生み出す。

## ◆主な事業

商工業総合振興事業／制度融資事業／企業立地推進事業

## ◆個別計画

## 【政策4 産業・交流】



### 【施策4-3】

暮らしやすさや地域の魅力を発信し、移住・観光交流人口の増加とまちづくりの担い手育成を進めます

主管課：商工観光課

#### ◆現状と課題

良好なアクセスと豊かな自然環境、軽井沢エリアとしてのブランド力など、観光誘客や移住・定住につながる地域の魅力は一定の評価を受けているが、効果的なプロモーションなどの情報発信や素材づくりに課題がある。観光面では、こもろ観光局と連携した「観光地域づくり」の具体化や動物園再整備による懐古園の魅力アップなど素材の魅力づくりを進め、各事業者が一体となった誘客の取り組みが必要である。新型コロナウイルス感染症の影響は、観光関連産業にこれまで経験したことのない停滞をもたらしており、引き続き事業継続や誘客への支援を必要とする。

一方、新型コロナウイルス感染症の影響で移住ニーズが高まっているが、人口減少対策として移住・定住をさらに進めるためには、充実した素材の提供が課題であり、事業者との連携など新たな視点を持ち、より踏み込んだ取り組みとすることが必要である。

#### ◆方針（目的）

こもろ観光局と連携し、地域が持つ魅力を効果的に伝える手法の検討とブランド力を活かした情報発信を進め観光誘客を図るとともに、地域資源の活用による新たな観光素材の掘り起こしなど観光地域づくりを進め、地域の誘客力向上を図る。新型コロナウイルス感染症の影響からの事業継続、消費回復に取り組み地域経済の活性化につなげる。

移住・定住促進では、「ほどよい田舎での暮らし方」や素材の提案に民間事業者の視点を加え、誘致活動や体験事業などで、希望者が具体的な検討をしやすい環境整備を図る。また、人口減少対策を見据えたまちづくりの担い手育成として、人材誘致の観点も持ち積極的に進める。

◆目標

- ①事業関係者や地域住民が地域の強みや魅力を認識し、連携した誘客に取り組む状態。
- ②新築住宅着工数や空き家バンク物件成約件数の向上により移住・定住が増え、移住者を中心とした事業活動や地域活動が発生した状態。
- ③継続的な支援により、新型コロナウイルス感染症の影響による消費の落ち込みを改善した状態。

◆目標値

①	指標名	新築住宅着工数と空き家バンク契約数				
	設定理由	この数値の向上が定住人口の増加につながるため。				
	目標値	令和元年度(現状値) 171件（内空き家バンク契約数26件）	令和2年度 160件	令和3年度 160件	令和4年度 160件	令和5年度 160件
②	指標名	市内宿泊者数				
	設定理由	小諸市での宿泊者数を観光やビジネス活動の物差しとして捉えると、観光産業等の回復を図るためには、この数値の回復、増加が必要となるから。				
	目標値	令和元年度(現状値) 165,120人 ※H30年度数値	令和2年度 90,000人	令和3年度 130,000人	令和4年度 165,000人	令和5年度 166,000人
③	指標名	地域ブランド調査の魅力度全国順位				
	設定理由	客観的に小諸市を評価する調査であるため。				
	目標値	令和元年度(現状値) 185位	令和2年度 180位以内	令和3年度 180位以内	令和4年度 180位以内	令和5年度 180位以内

◆SDGsの推進に向けた取り組み

ゴール8 「働きがいも経済成長も」

地域が持つ魅力とブランド力を活かし観光関連産業を振興し、地方文化の振興や地場製品の販売促進につなげ、地域の特色を活かした経済活動の定着を図る。

また、人口減少対策として移住・定住を推進し、地域経済の安定や担い手確保を進める。

◆主な事業

観光振興事業／観光地域づくり事業／移住・定住促進事業

◆個別計画

観光地域づくりビジョン／動物園再整備基本計画